

# 事業名：「JWBF組織基盤強化事業 ～中長期計画推進プロジェクト～」

団体名：一般社団法人  
日本車いすバスケットボール連盟

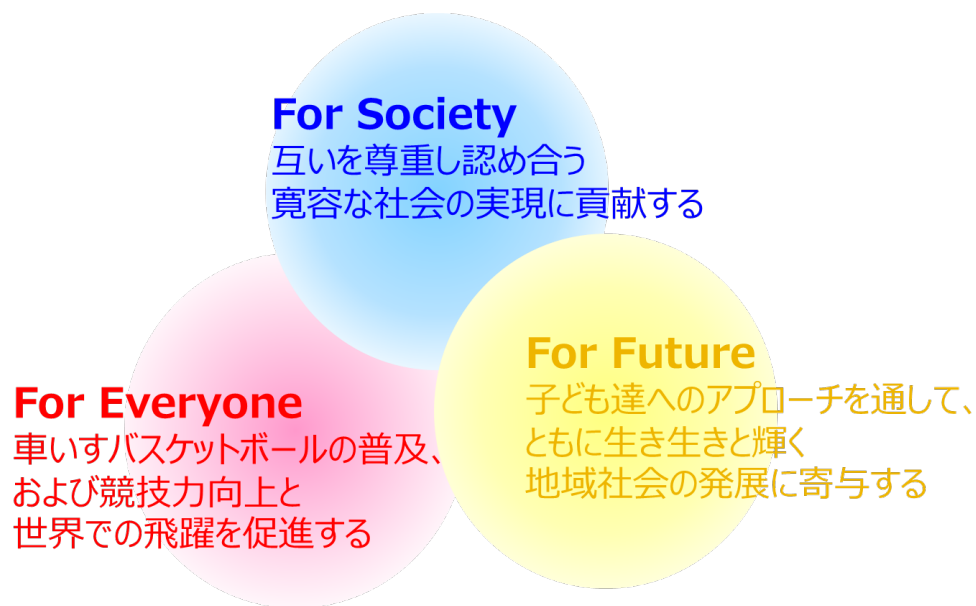
## 事業実施の背景・課題、目標

東京オリンピック・パラリンピックムーブメント後、車いすバスケットボール競技の発展を視野に入れ、2020年12月「中長期計画策定委員会」を設置。法人役員と事務局において連携を図り、2021年3月～4月に全国のブロックやクラブチームを対象に、車いすバスケットボール競技の現状や課題それを取り巻く環境等のヒアリング調査を行った。

ヒアリング調査で【現状の把握】で見えてきた課題は、『人・物・金・情報』の課題だけに止まらず、少子高齢化やコロナ禍など、社会背景も複雑に絡み合い、今のままでは、支える方々も含めた**競技人口減少の一途を辿る**ことが予想された。

現状の課題を如何にしてポジティブに解決していくのが当連盟に問われ、その一策として、導き出した答えが、『**車いすバスケットボールで眩しいほどに輝く未来を創ろう**』というテーマを掲げ、地域の実情を知り現役で活躍している人材を全国の各ブロックから発掘し、その叡智を集結させることで、**未来プロジェクトチーム**（後の「中長期計画推進委員会」）を結成した。

その未来プロジェクトが議論と研修を重ね、1年半もの時間をかけ、JWBFとして以下のとおり**新しい3つ理念【赤の理念・青の理念・黄色の理念】**を創出した。



# 事業名：「JWBF組織基盤強化事業 ～中長期計画推進プロジェクト～」

団体名：一般社団法人  
日本車いすバスケットボール連盟

## 本事業における具体的な取組内容

計画№1 本プロジェクトを円滑に推進するため、また組織基盤強化に必要である人材を雇用する。

実施期間：令和5年～令和7年

取組内容：プロジェクトリーダー及びサブリーダーの2名雇用。

計画№2 天皇杯及び皇后杯等においてチケット販売及び、LIVE配信を行う。  
経済的理由や重度障害による移動困難なケースの方々など、全ての国民に等しく、  
車いすバスケットボールの魅力を見て頂ける環境を整備する。

実施期間：令和5年～令和7年

取組内容：LIVE配信5回

①天皇杯 ②皇后杯 ③④天皇杯2次予選（東日本・西日本）

⑤U25日本選手権

※宣伝広報活動にエネルギーを注ぎ、過去の視聴者数を上回ること

計画№3 プロジェクトリーダー及びサブリーダーを中核とし、中長期計画推進プロジェクト  
会議を促進する。

実施期間：令和5年～令和7年

取組内容：各ワーキンググループを編成し『する・みる・支える人』のバスケットボール  
ファミリーを増やすための中長期計画推進委員会を核としたアクションプラン  
を作成する。アクションプランに基づき、会員及びサポーター会員、  
スポンサーの獲得を目指す。

2030年最終ゴール目標

■する人（選手・スタッフ登録）：1500人達成

■みる人：天皇杯観客動員数1万人達成

■ささえる人：サポーター会員：1万人獲得 スポンサー企業10社増



# 令和5年度の取組内容

## 計画№1 本プロジェクトを円滑に推進するため、また組織基盤強化に必要である人材を雇用する。

本プロジェクトを円滑に推進するため、また組織基盤強化に必要である人材雇用（主に事務局長の採用）。

## 計画№2 天皇杯及び皇后杯等においてチケット販売及び、LIVE配信を行う。

国内主要大会（天皇杯、天皇杯2次予選東日本・西日本、皇后杯、U25日本選手権）においてLIVE配信の実施。

## 計画№3 プロジェクトリーダー及びサブリーダーを中核とし、中長期計画推進プロジェクト会議を促進する。

各ワーキンググループを編成し、『する・みる・支える人』のバスケットボールファミリーを増やすためのアクションプランの作成。中長期計画推進委員会の各ワーキンググループ発案の事業展開の開始。

新規事業の例：キッズジュニア環境創出プロジェクト1日車いすバスケットチーム体験「ONE DAY PROJECT」

# 令和5年度の取組の進捗・成果・課題

## 【令和5年度の進捗・成果】

組織基盤強化において最も重要度の高い核となる人材を雇用できた成果は大きい。当連盟が主催となる主要大会をLIVE配信できている事は、全国のクラブチームや車いすバスケットボールの普及・振興（組織基盤強化）にも繋がっている。中長期計画推進プロジェクト会議の開催を定期的に行うことで、またスポンサーの皆さまのご賛同を頂き、今年度立ち上げた新規プロジェクト（2事業）の導入が全国で進んでいる。

## 【令和5年度に生じた課題】

国内主要大会でのライブ配信は、計画通り実施することができた、しかし一方で『する・みる・支える人』を増やすため、より多くの方々に視聴して頂ける広報活動に、課題を残している現状がある。

また、中長期計画推進委員会においては、リモート開催で促進できているため、当初予算計上していた対面形式の開催には至っていない。



<GAME1> 天皇杯 第49回日本車いすバスケットボール選手権大会（神奈川...



# 本事業の成果目標・KPIの達成状況

**成果目標・KPI 1 プロジェクトリーダー及びサブリーダー、2名雇用。【概ね達成している】**

令和5年度：2名 令和6年度：2名 令和7年度：2名

**成果目標・KPI 2 LIVE配信5回（前年度の視聴数の増加を目指す）【概ね達成している】**

令和5年度：5回 令和6年度：5回 令和7年度：5回（予定）

**成果目標・KPI 3 2023年最終ゴール目標**

■する人（選手・スタッフ登録）：1500人達成

■みる人：天皇杯観客動員数1万人達成

■ささえる人：サポーター会員：1万人獲得 スポンサー企業10社増

成果目標plus 中長期計画推進委員会開催【①全体会／年2回 ②ヘッドクォーター会議／年4回】

## 令和6年度の実施予定

### 【令和6年度の取組内容】

本年度取り組んだ3つの事業を来年度も継続し、本プロジェクトの達成及び発展を目指す。

本プロジェクトを通じて、JWBFならではの成功事例をつくり、車いすバスケットボールやパラスポーツの価値や付加価値を高めながら、よりよいインクルーシブ社会を創ることに貢献する。また、本事業をブラッシュアップしながら促進することで、組織基盤強化体制を推進する。

### 【令和6年度の改善策】

中長期計画推進委員会と事務局との連携をより強化し、本プロジェクトを継続的に実施する。また、当法人は多くの専門部会や委員会、さらには各ブロックや全国にクラブチームが存在している強みを生かし、横断的な連携を図ることで、より組織基盤が強化されると未来予想図を描いている。令和5年度下半期にブランディング委員会を創設し、より戦略的に広報活動を実施する。